

第4節 年間指導計画の作成

1 年間指導計画の基本的な考え方

キャリア教育を教育活動全体を通じて、系統的・組織的に行うためには、計画に基づき実施する必要がある。前項で述べたように、キャリア教育の全体計画は、生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力を、意図的・継続的に育成していくために、各学校における教育目標や育成したい能力や態度、教育内容と方法、各教科等との関連等を示すものである。それに対して、各学年における年間指導計画は、各発達の段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画を具現化するものである。各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動の高等学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性に留意し、有機的に関連付け、発達の段階に応じた教育活動を展開する必要がある。また、これらの指導計画は各学校の教育課程に適切に位置付けられるべきものである。

年間指導計画に盛り込む要素としては、学年・実施時期・予定時数・単元名・各単元における主な学習活動・評価などが考えられる。生徒の学習経験や発達の段階を考慮するとともに、季節や学校行事などの活動時期を生かし、各教科等との関連を見通して計画する必要がある。

(1) 年間指導計画作成の手順

年間指導計画作成の手順の例を以下に示す。

- ① 各学校の生徒の学科・学年等に応じた能力や態度の目標を決定する。
- ② キャリア教育の全体計画で設定したそれぞれの能力や態度の目標に基づき、各学校の年間行事予定、学科・学年別の年間指導計画に記載する内容を検討する。
- ③ 各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動及び学科や学年などの取組等を相互に関連付けた指導計画を作成する。
- ④ それぞれの能力や態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。

(2) 年間指導計画作成の留意点

年間指導計画の作成に当たっては、各学校における生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容となるよう検討する必要がある。各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動及び学科や学年の取組等の具体的な計画を体系的に作成し、それぞれのねらいや内容を踏まえた上で、関連付ける。また、高等学校学習指導要領との関連を考慮した上で、評価の視点についても検討する必要がある。こうして作成した各学校の計画については、教職員や保護者、地域が共通理解をもち、連携していくことが大切である。

年間指導計画作成の留意点を以下に示す。

- 各学校の生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容にする。
- 各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動及び学科や学年などの取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- 入学から卒業までを見通して生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする。
- 評価の視点等を考慮し、評価方法を検討する。
- 家庭や地域、学校間の連携を考慮する。

(3) 年間指導計画作成の効果

年間指導計画作成することで得られる効果としては、次のようなことが考えられる。

- 発達の段階に応じて学年を通したキャリア発達を支援できる。
- 発達の段階、学科や学年に応じた身に付けさせたい能力や態度の到達目標が明確になる。
- 年間における活動がどのような能力や態度の育成を図ろうとするものか明確になる。
- 各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動及び学科や学年の取組等がどのように関連付けられているか明確になる。

2 各教科と年間指導計画

教科や科目ごとに学年別年間指導計画作成する場合は、実施時期・予定時数・単元名・各単元における主な学習活動を明確にするとともに、高等学校学習指導要領との関連やキャリア教育の視点から身に付けさせたい力との関わりを記載することで、教科とキャリア教育との関わりが明確になり、体系的・系統的な指導が可能となる。

その際、キャリア教育実践の機会となり得る単元や教育活動を詳細に見いだす作業（いわゆる「洗い出し」の作業）と、教科を通したキャリア教育の年間指導計画作成との混同を避けることは重要である。

例えば、キャリア教育を通して育成する「基礎的・汎用的能力」の一つである「課題対応能力」には、情報を正しく理解するための能力が含まれるが、この力を育成する機会となり得る単元等は科目を問わず数多い。「国語総合」の「読むこと」では、文章の内容を叙述に即して的確に読み取することは主要課題の一つであるし、「地理A」「地理B」における地図の読図や衛星画像・空中写真の読み取り、「理科」の各科目における観察や実験の過程での情報の収集や実験データの分析・解釈などもその具体例となろう。また、授業中に板書された課題文を正しく読み取ることなどまでを視野におさめれば、情報を正しく理解するための能力の育成に寄与し得る教育活動は、文字通り無数にある。キャリア教育の実践の機会となり得る単元や教育活動を広く見出し、それを列挙することは、教科を通したキャリア教育の年間指導計画作成にとって有効な基礎作業の一つであるが、このような作業によって挙げられた膨大な数の単元等を、例えば一覧表形式に整理したとしても、それをそのまま指導計画として見なすことできない。なぜなら、その一覧は、キャリア教育の実践の機会として活用し得る可能性が高い場の羅列に過ぎず、キャリア教育の一環としての教育意図に基づく指導実践の計画にはなっていないからである。

このような「洗い出し」の作業によって列挙された単元等のうち、学校ごとに設定したキャリア教育の目標や他の教科等との関連性を勘案しながら、社会的・職業的自立に向けその基盤となる能力や態度を育てるためのキャリア教育の一環として、どこに焦点を当てようとしているかを検討し、教育意図に基づいて実践する具体的な単元等を特定していくことが、体系的・系統的な指導にとって不可欠である。それぞれの生徒に学びの意義を認識させるに当たり、自らの将来との関係を特に意識させることが授業のねらいを実現する上でも効果的に働く単元等を見いだし、授業を改善するきっかけとしてキャリア教育の視点を生かすことが求められている。

<高等学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容等の例>

以下、各教科・科目とキャリア教育との関連について、「基礎的・汎用的能力」の育成に特に密接に関連する部分に注目し、各教科の学習指導要領解説から具体例を挙げつつ整理したい。なお、以下に示す具体例はあくまでも例示であり、各教科を通したキャリア教育の取組の機会を網羅的に示すものではない。各学校においては、学科や設置形態の特色、地域社会の特徴、生徒の実態などに応じて、創意ある多様な実践が展開される必要がある。（なお、以下の引用等は、国立教育政策研究所『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』（平成23年3月）によるものである。）

【人間関係形成・社会形成能力】

「人間関係形成・社会形成能力」の重要な要素としてコミュニケーション能力があるが、とりわけ、コミュニケーションの基盤となる言語の能力を培うために重要な役割を担うのは、各学科に共通する教科（以下、本文では「共通教科」、引用文の枠内においては「共通」と略す）では「国語」「外国語」、主として専門学科において開設される各教科（以下、本文では「専門教科」、引用文の枠内においては「専門」と略す）では「英語」が重要な役割を担っていることは自明であろう。しかし、生徒の言語に対する関心や理解を深め、言語活動を充実することは全ての教科等の指導に当たって配慮すべきことである。ここでは、高等学校学習指導要領解説から「国語」「外国語」「英語」以外の教科に焦点を絞り、「人間関係形成・社会形成能力」に関連の深い部分を引用する。

【例】芸術【共通】（第2章第7節 工芸Ⅰ 4内容の取扱い p.90）

鑑賞において造形的な視点を豊かにもって対象をとらえるためには、言葉で考えさせ整理することも重要である。言葉にすることにより、美しさの要素が明確になったり、言葉を使って他者と意見を交流することにより、新しい価値などに気付いたりすることができるようになるからである。

指導に当たっては、生徒が個性を尊重し合いながら、工芸作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、作品の見方、感じ方を広げ、深めるようにしていくことが必要である。その際、鑑賞レポートを作成するなどの学習も充実させていくことが大切である。

ここで指摘される共通教科「芸術」だけでなく、専門教科「音楽」「美術」においても、他者を尊重し協力する力の育成に働きかける豊かな学習活動を有している。また、次に示す「体育」は共通教科・専門教科を問わず、コミュニケーションやチームワークに関わる能力を向上させる学習活動が極めて多い。この他にも例えば、共通教科「家庭」における「生活デザイン」では、高齢者の自立的な生活を支援することの意味やコミュニケーションの重要性を理解することができるようにすることが求められるなど、「家庭」においては共通教科・専門教科共に、人とのコミュニケーションをはじめとする人間関係形成に関わる多くの学習機会がある。

【例】保健体育【共通】（第2章第1節 体育 2目標 p.16）

体育では、体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資するものである。この資質や能力とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的・計画的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。

さらに「情報」においても、共通教科・専門教科とも、情報機器を活用したコミュニケーションに関わる能力の向上に直接的に働きかける様々な学習活動が展開される。

【例】情報【共通】（第1部第2章第1節 第1目標 p.18）

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。（高等学校学習指導要領 第2章 第10節 情報 第2款 第1 社会と情報 1目標）

この科目のねらいは、情報社会に積極的に参画する態度を育てることである。その際、情報を適

切に活用し表現する視点から情報の特徴や情報社会の課題について、情報モラルや望ましい情報社会の構築の視点から情報化が社会に及ぼす影響について理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識と技能を習得させることもねらいとしている。

また、以下に示す専門教科「商業」はもちろんのこと、人に直接関わる職業について学ぶ専門教科「福祉」「看護」等においても、それぞれの専門性を生かしたコミュニケーション・スキルの向上に寄与する豊かな学習機会がある。

【例】商業【専門】（第2章第4節 ビジネス実務 第2 2内容 (1) オフィス実務 p.21）

2(1)ア 企業の組織と仕事 イ ビジネスマナーとコミュニケーション

3(2)ア 内容の(1)のアについては、企業の組織と意思決定の流れ、職業人としての心構えと良好な人間関係の構築の必要性、仕事の進め方や改善方法などを扱うこと。イについては、訪問、受付案内などの際のマナー及びディスカッションや交渉などのコミュニケーションの技法を扱うとともに、ディベートなどを通してコミュニケーション能力の育成を図ること。（高等学校学習指導要領 第3章 第3節 商業 第2款 第4 ビジネス実務 2内容, 3内容の取扱い）

ア 企業の組織と仕事

ここでは、企業の組織と意思決定との関係及び企業における意思決定の流れについて理解させる。また、職業人としての望ましい心構えや良好な人間関係を構築することの必要性、職場における人間関係と接し方が仕事に及ぼす影響及びチームとして働くことの意義について考察させる。さらに、年間・月間などのスケジュール表の種類及びガントチャートの活用やPERTによる日程管理を取り上げ、仕事の進め方や改善方法について理解させる。

イ ビジネスマナーとコミュニケーション

ここでは、「ビジネス基礎」での学習を踏まえ、挨拶、応対するときの表情、受付案内、電話応対、座席配置など応対に関するマナー及び慶事、弔事、贈答など交際に関するマナーを、実習を通して習得させ実践できるようにする。また、ディスカッション、交渉、説明、苦情対応の方法などを、実習を通して習得させ実践できるようにするとともに、ディベートを通して、相手の考えを理解し、それを踏まえて自己の考えを効果的に伝えることができるようにする。

【自己理解・自己管理能力】

共通教科「国語」、 「外国語」や専門教科「英語」における言語活動は、コミュニケーションに関わる能力を向上させるだけでなく、自己理解を深めることにも寄与するものである。また、自己理解の深まりにより、他者理解や社会参画も促進されることが示されている。「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力は、それぞれが相互に密接に関わっているが、次に示す学習指導要領解説の指摘はその具体的な一側面を示す好事例である。

【例】国語【共通】（第2章第5節 古典A 3内容 p.65）

ア 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。（高等学校学習指導要領 第2章 第1節 国語 第2款 第5 古典A 2内容）

古典などに表れている、様々な思想や感情には現代に通じるものもあれば、異質なものもある。これらに触れることを通して、ものの見方が広くなり、考え方が深まり、豊かな感性や情緒がはぐくまれる。古典を読むことを通して、自らの生活や人生に目を向け、その在り方を深く考える態度を育成することが大切である。

【例】外国語【共通】（第1章第2節 外国語科の目標 p.8）

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。（高等学校学習指導要領 第2章 第8節 外国語 第1款 目標）

外国語科の目標は、コミュニケーション能力を養うことであり、次の三つの柱から成り立っている。

- ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深めること。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。
- ③ 外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うこと。

（中略）②は、外国語の学習や外国語の使用を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることに積極的に取り組む態度を育成することを意味している。具体的には、理解できないことがあっても、推測するなどして聞き続けたり読み続けたりしようとする態度や確認したり繰り返しや説明を求めたりする態度、自分の考えなどを積極的に話したり書いたりしようとする態度などを育成することを意味している。このようなコミュニケーションへの積極的な態度は、国際化が進展する中であって、異なる文化をもつ人々を理解し、自分を表現することを通して、異なる文化をもつ人々と協調して生きていく態度に発展していくものである。したがって、外国語の学習や実際の使用を通してこの目標を達成しようとすることは、極めて重要な意味をもつ。

さらに、職業に関わる専門教科においては、生徒一人一人の興味や関心を基盤とする学習への動機付けの重要性や、それぞれの産業分野におけるスペシャリストとしての自己実現に向けて意欲的に学習に取り組む必要性が多く示されている。一人一人の生徒が自らの興味・関心への認識を深め、自らの将来を展望しつつ主体的に学習に取り組む力は、すべての教科を通して育成されるものであるが、職業に関わる専門教科の果たすべき役割はとりわけ大きいと言える。

【例】農業【専門】（第2章第2節 第1目標 p.17）

農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。（高等学校学習指導要領 第3章 第1節 農業 第2款 第2 課題研究 1目標）

自発的、創造的な学習態度の育成に当たっては、課題の解決を図ろうとする学習の活動全般を通して、創意工夫する面白さと学習の喜びを体験させ、自らの興味・関心につながる学習の意義を理解させ、学習方法を習得させるとともに、学習意欲を喚起し、自律的な学習や工夫する学習及び自ら評価する態度を育成することが必要である。

【例】家庭【専門】（第2部第2章第1節 生活産業基礎 第2 2(4)職業生活と自己実現 p.70）

2(4) 職業生活と自己実現

3(2) Ⅰ 内容の(4)については、生活産業にかかわる職業人に求められる資質・能力と役割や責任、職業資格を専門科目の学習と関連付けて扱うこと。（高等学校学習指導要領 第3章 第5節 家庭 第2款 第1 生活産業基礎 2内容、3内容の取扱い）

ここでは、生活産業の職業人に求められる資質や能力としては、人や生活に対する理解、衣食住、ヒューマンサービスにかかわる専門的な知識や技術、コミュニケーション能力などがあることを理

解させる。

また、必要な資質、能力、知識や技術は専門科目の学習を通して身に付けていくことができることを、資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てさせることなどを通して具体的に理解させ、専門科目の学習に向けての意欲を高めさせる。また、法令を遵守することはもとより、製品の提供、保育、家庭看護や介護にかかわるサービスの提供などには、より高度な責任が伴うことについても理解させる。

その上で、それらの資質や能力を生かして生活産業のスペシャリストとして働くことが自己実現につながっていくことを、社会人講師の講話や生活産業現場の見学などを通して理解させる。

【課題対応能力】

学校教育においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならない。これは、学校教育法第30条第2項に定められ、第62条によって高等学校に準用される。課題を発見・分析し、適切な計画を立てて課題を解決するために必要な力は、高等学校におけるすべての教育活動を通して育まれるものであり、各教科における指導もまたその重要な機会である。それぞれの科目や単元・題材などの特質に応じた多様な取組が期待される。

【例】地理歴史【共通】（第2章第2節 世界史B 2(5)地球世界の到来 p.46）

(5) オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。（高等学校学習指導要領 第2章 第2節 地理歴史 第2款 第2世界史B 2内容）

「オ 資料を活用して探究する地球世界の課題」は、これまでに習得した知識や技能を活用して、生徒自らが主題を設定し資料を用いて探究する活動を通して、歴史的な考察方法を習得することを目指している。

【例】数学【共通】（第1部第3章第2節 指導上配慮すべき事項 pp.67-68）

3 指導に当たっては、各科目の特質に応じ数学的活動を重視し、数学を学習する意義などを実感できるようにするとともに、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えたり、それを発展させたりすること。
- (2) 学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用すること。
- (3) 自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすること。（高等学校学習指導要領 第2章 第4節 数学 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い）

(1)は、問題の解決に関することを述べている。

「自ら課題を見だし」とあるが、課題についてはすでに数学的に表現されているものであっても構わない。大切なことは、一人一人の生徒にとって解決する必要性のある課題であることである。その課題を分析し、解決のための構想を立て、考察・処理するが、場合によっては再度、構想を立

て直すことも必要である。結果を得たら、その過程を振り返り、条件がどこに生かされているか、条件を変えると結果はどのように変わるか、見方を変え違うやり方で結果を得ることはできないかなどを検討し、可能ならば新たな課題を設定する。このような一連の活動を通して、主体的に数学を学ぶ態度が育てられるのである。

(2) は、学習した内容を日常生活や社会生活などにおける問題の解決に活用することを述べている。

この場合、日常生活や社会生活などにおける事象の数学的な側面に着目し、数学的に表現（数学化）することが必要である。また、数学的な結果が得られたら、結果を元の事象に戻し、その意味を考えることも必要である。このような活動が、数学的な表現を見直し、そのよさを認識することにつながるのである。

【例】理科【共通】（第1部第2章第2節 物理基礎 3(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 p.33)

様々な物理現象とエネルギーの利用に関する学習活動と関連させながら、観察、実験を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出など物理学的に探究する方法を習得させるようにする。各探究活動では、これらの探究の方法を課題の特質に応じて適切に取り上げ、具体的な課題の解決の場面でこれらの方法を用いることができるように扱う必要がある。

【例】水産【専門】（第2章第5節 水産海洋科学 第2 2(4) 海洋に関する探究活動 p.32-33)

適切な研究課題を設定し、課題を探究する活動を通して水産業や海洋関連産業に関する科学的な見方や考え方、自発的な学習態度の育成を図ることをねらいとしている。

具体的な研究課題の事例として、水産資源量及び漁業生産量の変化と水産物需給への影響、海洋環境の変化が気象や人間生活に及ぼす影響、それぞれの地域で推進される水産業活性化方策の現状や展望、地域の特産物を活用した商品開発など新たな展開等が考えられる。

また、発表の機会を設けるなど、学習や研究活動等の成果を地域や産業界に発信できるようにする。

【キャリアプランニング能力】

高等学校教育の目標を定める学校教育法第51条が規定するように、社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させることは、各高等学校が中核的に取り組むべき課題の一つである。それゆえ、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力の育成は、高等学校の教育活動全体を通じて取り組まなくてはならない（学習指導要領第1章第5款5(2)）。その際、本項冒頭に引用した中央教育審議会答申が指摘するように、生徒がそれぞれのキャリアを積み上げていく上で必要な知識等を身に付ける機会として「公民」や「家庭」での学習はとりわけ重要である。

【例】公民【共通】（第2章第1節 現代社会 2(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 p.11-12)

ア 青年期と自己の形成

生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。（高等学校学習指導要領 第2章 第3節 公民 第2款 第1 現代社会 2内容）

「自己実現と職業生活」については、現代社会の特質や社会生活の変化とのかかわりの中で職業生

活をとらえさせ、望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けさせるとともに、自己の個性を發揮しながら新たなものを創造しようとする精神を大切に、自己の幸福の実現と将来の職業生活や人生の充実について触れながら考察することが大切である。

【例】家庭【共通】（第1部第2章第2節 家庭総合 2(5)生涯の生活設計 p.33）

(5) 生涯の生活設計

生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えることができるようにする。（高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭 第2款 第2 家庭総合 2内容）

ここでは、家庭科の学習を通して自らの生き方を見つめ、生涯にわたる生活設計ができるようにする。

（中略）人の一生における就職や結婚などの重要な課題を認識させ、自分の目指すライフスタイルを実現するために、経済計画も含めた生涯の生活設計に取り組みさせる。その際、家族や友人、地域の人々と有効な人間関係を築き、より豊かな衣食住生活を営むための知識と技術を身に付けることが、生活設計の基礎となることを認識させ、単なるライフイベントの羅列に終わらないように留意する。また、生活設計の実現には、様々な社会的条件が大きく影響することについても取り上げ、生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野をもって生活を創造することや不測の事態にも柔軟に対応する必要性を認識させる。

また、職業に関する専門教科においては、それぞれの産業分野におけるスペシャリストとして働くことや、職業人としての将来設計に関わる具体的な能力を高める様々な学習が展開される。

【例】工業【専門】（第2章第1節 工業技術基礎 第1目標 p.11）

工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各専門分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野と倫理観をもって工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。（高等学校学習指導要領 第3章 第2節 工業 第2款 第1 工業技術基礎 1目標）

実験・実習を通して、工業に関する広い視野と技術者として望ましい倫理観や勤労観・職業観をもち、工業の諸問題を適切に解決し、工業の発展を図る意欲的な態度を育てることである。

【例】看護【専門】（第2章第1節 基礎看護 第2 1内容の構成及び取扱い p.9）

ア 指導に当たっては、望ましい看護観や職業観及び看護職としての倫理観を育成すること。（高等学校学習指導要領 第3章 第6節 看護 第2款 第1 基礎 看護 3内容の取扱い）

情報化の進展など社会の変化の中で人々の考え方は多様化し、個人の考え方が尊重されるなど、人権の尊重が重要な時代となってきている。このような社会の状況の中であって、看護に携わる者は、専門職として対象者の様々な要求に的確にこたえる責任と義務があると同時に、人間の生命や人権を尊重した信念、倫理観に従って看護を行っていくことが重要となってきている。

すなわち、この科目の指導に当たっては、看護の専門職業人としての精神的基盤である看護観や職業観及び看護職としての倫理観を育成し、自ら判断し行動できる力を育てるように工夫することが大切である。

【例】情報【専門】（第2部第2章第1節 第2 2(1)イ 情報化の進展と情報産業の役割 p.59)

情報産業が、社会の情報化を支え、発展させてきたことや望ましい情報社会の形成に重要な役割を果たしていることについて理解させる。また、委託業務の増大や業務の国際化などにより、情報産業の業務内容や業務範囲等に変化が生じていることや情報産業で働く技術者がどのような役割を果たしているかについても理解させる。その際、これからの専門教科情報科の学習に関する目標や指針について考えさせるようにすることが大切である。

3 総合的な学習の時間と年間指導計画

総合的な学習の時間の目標の一部に「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」とあるように、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることが大切である。ここで、『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』が、「『自己の在り方生き方を考えることができる』とは、以下の三つのことである」と指摘している点は、特に重要であろう。

一つには、人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。

二つには、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。

これらの二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の在り方生き方につなげて考えることが三つ目である。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付き、人間としての在り方を基底に、自分の人生や将来、職業について考え向上しようとしていくことである。

こうした三つの側面から自己の在り方生き方を考えることが大切である。その際、具体的な活動や事象とのかかわりを拠り所として、多様な視点から考えさせることが大切である。また、その考えを深める中で、さらに考えるべきことが見出されるなど、常に自己との関係で見つめ、振り返り、問い続けていこうとすることが重要である。

(1) 高等学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例

総合的な学習の時間の目標には、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」とあり、キャリア教育と深く関わっている。

高等学校における学習活動の例として、「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が示され、また、各学校において総合的な学習の時間の内容を定めるにあたって積極的に取り入れることが求められる学習活動のひとつに就業体験活動が挙げられている点にも十分な配慮が求められる。

次の表は、高等学校学習指導要領第4章「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例示である。

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (4) 育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。
 - (5) 学習活動については、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動、自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動などを行うこと。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
 - (3) 自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

(2) 総合的な学習の時間の年間指導計画の具体例

総合的な学習の時間の目標は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」、①「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」こと、②「学び方やものの考え方を身に付け」ること、③「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て」ること、④「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」ことである。この目標を達成することはキャリア教育に密接に関係している。次に、総合的な学習の時間の具体例を示す。

○テーマ 『私の未来・社会の未来』 - 21世紀を生きる私 - 《第1学年》

よく生きるとは 自分を知る 社会を知る 働くことを考える 未来について考える

時期	時数	主な学習内容	キャリア教育との関連	教科等との関連
4月	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間説明」 ○「1年生の目標」「1学期の目標」学校生活やその他での具体的目標を立てる。 「自分を知る」ワークシート ○「自分って何だろう」 自分の性格、興味、周りから見た自分を知る。 「進路意識」ワークシート ○「自分史を書く」 現在までの自分史を書き、今後の在り方生き方を考える。 	自己理解・自己管理能力など、自らの生き方を選択していけるようにするキャリア発達を促す活動	《共通教科家庭》 「人の一生と家族・家庭」「青年期の自立と家族・家庭」「生活の自立及び消費と環境」「生涯の生活設計」 《公民》 現代社会と人間としての在り方生き方
5月	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「働くとは・職業を考える」 働くとはどういうことかを知り考える。 職業の種類と職業観 職業観についてのディベート 	働くことや職業について考えられるようにする活動	「青年期と自己の形成」「現代の経済社会と経済活動の在り方」
6月	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「2年次コース選択説明会」 ○「作文」 1学期を振り返って 目標とこれからの私 ○「職業人インタビュー」 準備シート記入 	キャリアプランニングを考える活動、自己理解・自己管理能力を育てる活動	《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」「学業と進路」
7月	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「職業人インタビュー」 インタビューシート記入 「職業人インタビュー」 まとめと発表 班で全員発表をしてその後、クラスで代表者が発表する。 	働くことや職業について考えられるようにする活動、情報を収集し活用する活動	

○テーマ 『私の未来・社会の未来』 - 21世紀を生きる私 - 《第2学年》

よく生きるとは 自分を知る 社会を知る 働くことを考える 未来について考える

時期	時数	主な学習内容	キャリア教育との関連	教科等との関連
4月	3	<p>「2年生の目標」 1学期の目標 学校生活やその他の生活の具体的な目標を立てる</p> <p>○「インターンシップ・学校見学説明会」</p> <p>○「自分を知る」 価値観について知り、自分の価値観についての意識を知る。</p> <p>○「ソーシャルスキルトレーニング」 ソーシャルスキルはなぜ必要か、相互の理解怒りのコントロールなど</p>	<p>「自己理解・自己管理能力」など、自らの生き方を選択していけるようにするキャリア発達を促す活動</p>	<p>《共通教科家庭》 「人の一生と家族・家庭」 「青年期の自立と家族・家庭」 「生活の自立及び消費と環境」 「生涯の生活設計」</p> <p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」 「現代の経済社会と経済活動の在り方」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」 「学業と進路」</p>
5月	2	<p>実際にを行い、身に付ける。</p> <p>○「働くとは」 働くとは、働くことと社会の一員との関係を知り、考え、自分が就きたい職業を考える。</p> <p>○「講演」 企業で働くこと 企業の方による講演</p> <p>○「面接講義」</p>	<p>「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」を高める活動</p> <p>働くことや職業について考えられるようにする活動、キャリアプランニングを考える活動</p>	<p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」 「現代の経済社会と経済活動の在り方」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」 「学業と進路」</p>
6月	4	<p>インターンシップ・学校訪問、実際の試験に向けて、面接についての講義</p> <p>○「求人票を読む」 実際の求人票から書かれている内容を読み取り理解し、雇用条件、企業内容を具体的に知る。</p> <p>○「企業・学校研究」 インターンシップ、学校見学に向けて、訪問する企業や学校を研究し、体験する。</p> <p>○「インターンシップ・学校見学の振り返り」</p>	<p>自らの生き方を選択していけるようにするキャリア発達を促す活動</p>	<p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」 「現代の経済社会と経済活動の在り方」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」 「学業と進路」</p>
7月	2	<p>○「インターンシップ・学校見学のまとめと発表」 班で発表（全員） クラスごとの発表会（企業の方を招いて）</p>	<p>情報をまとめ、情報手段を主体的に選択し、他者にわかりやすく伝える活動</p>	<p>《国語総合》 「話すこと・聞くこと」 「書くこと」</p> <p>《情報》 「情報通信ネットワークとコミュニケーション」</p>

○テーマ 『私の未来・社会の未来』 - 21世紀を生きる私 - 《第3学年》

よく生きるとは 自分を知る 社会を知る 働くことを考える 未来について考える

時期	時数	主な学習内容	キャリア教育との関連	教科等との関連
11月	4	<p>○「社会の今を知る」</p> <p>○「これからの社会これからの生活」 高齢化社会、男女共同参画社会、循環型社会、持続可能な生活等</p> <p>○「38歳のライフプランを考える」</p> <p>○「進路先の研究」 就職先の研究進学先で何のために何を学ぶのか等</p> <p>○「3年間の成果」 作文 学習、部活動、精神面、健康、人間関係、社会との関係等の成果をまとめる</p>	<p>自らの生き方を選択していけるようにするキャリア発達を促す活動</p> <p>キャリアプランニングを考える活動</p> <p>自らの生き方を選択してキャリア発達を促す活動</p>	<p>《共通教科家庭》 「人の一生と家族・家庭」 「青年期の自立と家族・家庭」 「生活の自立及び消費と環境」 「生涯の生活設計」</p> <p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」</p>
12月	2	<p>○「ソーシャルスキルトレーニング」 社会人として身に付けたいこと</p> <p>○「プレゼンテーション」</p>	<p>情報を他者にわかりやすく伝える力を高め、キャリアプランニングを考える活動</p>	<p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」</p>
1月	3	<p>○「3年間の成果とこれからの私」</p> <p>○「21世紀の社会を生きる」 社会と自分との関わりを考える</p>	<p>情報を他者にわかりやすく伝える力を高め、キャリアプランニングを考える活動</p>	<p>《公民》 「現代社会と人間としての在り方生き方」 「青年期と自己の形成」</p> <p>《特別活動》 「ホームルームや学校の生活づくり」 「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」</p>

4 特別活動と年間指導計画

特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標としている。「人間関係形成・社会形成能力」の育成に欠かせない特別活動は、その全ての活動や行事がキャリア教育に関係するが、「適応と成長及び健康安全」「学業と進路」等の内容とする「ホームルーム活動」は、キャリア教育の実践の場としてとりわけ重要である。特別活動全体を通じてキャリア教育を実践するに当たっては、社会の一員としての自己の生き方を探究するなど、人間としての在り方生き方の指導が行われるように十分配慮する必要がある。

特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする。また、各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫したい。その際、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験などの勤労に関わる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れることが望ましい。

(1) 高等学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例

次の表は特別活動におけるキャリア教育に関連の深い主な目標・内容等の例である。

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔ホームルーム活動〕

2 内容

(2) 適応と成長及び健康安全

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

〔生徒会活動〕

1 目標

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

〔学校行事〕

1 目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

2 内容

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう〔ホームルーム活動〕等の指導を工夫すること。特に、高等学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活をできるよう工夫すること。
- (4) 〔ホームルーム活動〕を中心として特別活動の全体を通じて、特に社会において自立的に生きることができるようにするため、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方の指導が行われるようにすること。その際、他の教科、特に公民科や総合的な学習の時間との関連を図ること。

(2) 特別活動の年間指導計画の具体例<普通科・第1学年・ホームルーム活動>

時期	ホームルーム活動	キャリア教育との関連	教科等との関連
4月	「学校生活への適応」 「高校生活の目標」 「学級組織づくり」	個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活できるよう工夫する。 仕事の分担などを通し社会生活における役割や自己責任を自覚する。	
5月	「人間関係の形成」 「自己理解・他者理解」	コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 自己及び他者の個性を理解し、尊重し合う。	<体育>役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする。
6月	「学ぶことと働くことの意義の理解」 「望ましい勤労観・職業観の確立」 「社会生活における役割の自覚と自己責任」	勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する。 社会において自立的に生きることができるようにするため、社会の一員としての自己の生き方を探求する。 ※ 夏季休業期間に実施する職場見学の事前学習の一環として	<現代社会>自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。
7月	「ボランティア活動の意義の理解と参画」	社会奉仕の精神を養う。 ※ 夏季休業期間にそれぞれの生徒が任意のボランティア活動を実施する	<国語総合>生活や人生について考えを深める。 <総合的な学習の時間>社会体験、発表などの学習活動を積極的に取り入れる。

5 各教科等を横断的に見た年間指導計画

各教科におけるキャリア教育の実践は、学習意欲の向上や学習習慣の確立にもつながることが期待されている。また、中央教育審議会答申においては、高等学校におけるキャリア教育の推進方策の柱の一つとして「キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を、教科・科目等を通じて理解させること」を挙げている。さらにキャリア教育が全ての教育活動を通して実践されることを前提としながら、「各教科・科目における取組は、単独の活動だけでは効果的な教育活動にはならず、取組の一つ一つについて、その内容を振り返り、相互の関係を把握したり、それを適切に結び付けたりしながら、より深い理解へと導くような取組も併せて必要である」と指摘し、その重要な役割として「総合的な学習の時間」や「特別活動」が挙げられている。総合的な学習の時間には「各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が求められており、また、特別活動には「各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連を図る」こと、「教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう、〔ホームルーム活動〕等の指導を工夫すること」が求められている。これらに鑑み、有機的に関連付けながら、各教科・科目のキャリア教育の視点（第2章第4節2参照）とのつながりを考慮し、連携を図りつつ指導計画を立てる。特に公民科や家庭科は、目標や内容がキャリア教育の目的そのものと重なる部分が多いことから、要所に配置するとよいだろう。

年間指導計画の例<各学科に共通する教科・第1学年>

時期	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
1 学期	<国語><外国語> コミュニケーションの基盤となる言語能力を育成する。 <体育>集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成する。	<外国語>言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。	<理科>観察、実験を通して、情報の収集、仮説設定、実験計画、検証、分析・解釈など探究する方法を習得させる。 <世界史B>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりする。	<現代社会>生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 <家庭基礎・生活デザイン>人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴と課題について理解させる。
2 学期	<情報>情報モラルを身に付けた上で、情報機器やネットワークなどを適切に活用するとともに効果的にコミュニケーションを行うための知識と技能を習得させる。	<保健>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	<数学>学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用する。	<家庭基礎>自立した生活を営むために必要な衣食住、経済計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、主体的に生活を設計することができるようにする。
3 学期	<芸術>互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解する。	<国語総合>古典などに現れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	<総合的な学習の時間>習得した知識や技能を活用し、設定した課題について資料を用いて探究する活動を通し考察する。	<総合的な学習の時間>ライフロールについて理解し、20年後までのキャリアプランを作成する

6 進路指導と年間指導計画

進路指導の年間指導計画の作成に当たっては、これまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点からとらえ直し、年間指導計画の在り方を見直すことが必要である。

第1章第2節で詳述した通り、進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路計画・選択をし、進学又は就職に結び付けていく指導である。また、進学・就職後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように、教職員

が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。このことは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じである。

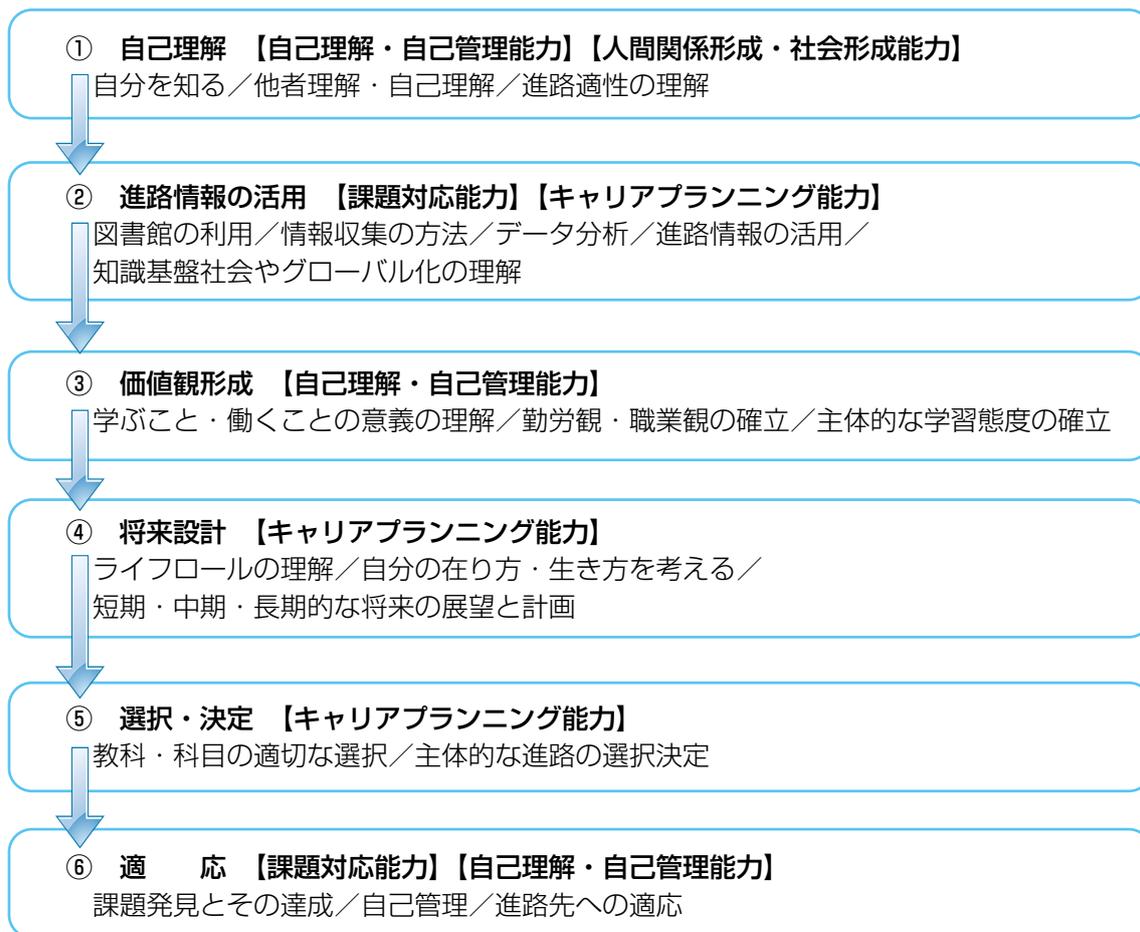
しかしながら、これまでの進路指導の実践は、ねらいを必ずしも反映したものではなかった。例えば、進路指導担当の教職員と各教科担当の教職員との連携が不十分であったり、一人一人の発達を組織的・体系的に支援するといった意識や姿勢、指導計画における各活動の関連性や系統性等が希薄であったりして、子どもたちの意識の変容や能力や態度の育成に十分結び付いていないといった状況が見られた。さらには、「進路決定に偏った指導」や「出口指導」などといった指摘も受けている。

そこで、キャリア教育の視点から、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが、系統的に展開され、将来、社会人・職業人として自立し、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していけるよう、規範意識やコミュニケーション能力など、幅広い能力の形成を支援することを重視した年間指導計画の作成を進めることが必要である。

(1) 卒業直後の進学や就職に関する指導とキャリア教育の関係

進学指導・就職指導の目標は、生徒一人一人が自分の興味・関心や適性を理解し、適切な進路選択を主体的に行うことである。したがって、指導に当たっては、生徒一人一人を理解し、第1学年の段階から発達に応じた指導を意図的・計画的に行っていくことが必要である。しかし、現状では第2学年後半から第3学年前半を中心に、単発的に行われていることが多い。段階的に自分の人生や進路を考えてこなかった生徒は「とりあえず」「高校卒業直後の行き先」だけを「その時に持っている材料のみで」決定しなければならない。このような状況においては、短期間で結論を出せない生徒に対し、「普段から考えていない」「十分な準備をしていない」と責めることはできないだろう。特に高等教育への進学者の中には将来の生き方・働き方について考え、選択・決定することを先送りする傾向が強く、進路意識や目的意識が希薄なままとりあえず進学している者が少なくない現状について、教師自身が問題意識を持つことから始める必要もある。キャリア教育の視点から、生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれの生徒が、大きく変化する社会的な現実を正しく理解しつつ、自分の興味・関心や適性を踏まえ、主体的な進路選択ができるよう指導することが望ましい。

●進路決定手順と基礎的・汎用的能力の関係の一例



(2) 卒業直後の進学や就職に関する指導の計画を組み込んだキャリア教育の一例

	自己の適性理解	進路情報の活用・将来設計	教科・科目の適切な選択 主体的な進路の選択決定
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 興味検査を実施(興味の志向性を確認)する。 適性検査を実施(職業適性を確認)する。 自分に影響を与えた出会いや出来事から、自己の特性を理解する。 自分の好きな科目や得意な分野を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味に適した職業分野を探索する。 興味に適した学問分野を探索する。 四年制大学・短期大学・専門学校・留学について調査する。 入試制度について調査する。(国内に限らず、海外の入試制度について理解する) 資格・免許・スキルが、社会でどのように活用されているか、その取得や修得の方法について調べる。 目指す分野の有名人のキャリアパスを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校での学びと高校での学びのつながりについて確認する。 学校での学習が、日常生活と深い関わりを持っていることを理解し、高校での学習を充実させる態度を形成する。 自分の興味・関心や能力を更に伸ばすよう科目等を選択する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> やりたいこと、学びたいことを探索する。 体験等から、自己の適性について理解を深める。 自己の能力について検査等を利用して客観的に調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの情報活用の仕方を学ぶ。 やりたいこと、学びたい分野に関わる書籍を探し、読み込む。 高大連携プログラムへ参加する。 学校説明会・オープンキャンパスへ参加する。 インターンシップに参加する。 卒業生と懇談する。 学部・学科について理解を深める。 進学希望者は、上級学校進学後の就職の実態について調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校で学ぶ内容と、高校で学ぶ学習内容との関連を踏まえ、科目等を選択する。 学ぶことを通して得た達成感、充実感を確認する。 学ぶことを通して味わった喜びを確認する。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性を社会や職業に生かそうと意欲を高める。 生涯にわたって、自己の個性を高め、能力を発揮しようとする態度を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望を明確にする。 進路希望の先にある将来を展望する。 3年間の進路学習をまとめる。 後輩に、自分の進路決定までの歩みを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校での学習を通して、伸びた能力や備わった態度を振り返ってみる。 高校で学んだことが、自分の人生に生かされているか想像する。 3年間の学びを振り返り、総括する。 進路希望を選択する。